

新たに米袋でレジ袋

只見中生、知事にお披露目

今月末 町内の店舗に届ける



左から横山校長、鈴木さん、内堀知事、印南さん、山田さん、目黒教諭

プラスチック製レジ袋の使用を減らそう

と、新聞紙を使った買い物袋「新聞紙レジ袋」を作っている只見町の只見中の生徒は、紙製米袋を使ったレジ袋を新たに作成した。町内の三店舗で使ってもら

う予定で、夏休み明けの今月末に各店舗に届ける。六日、代表生徒らが県庁を訪れ、内堀雅雄知事にお披露目した。

米袋のレジ袋はミシンを使って両端や上部を補強した。新聞紙レジ袋よりも強度が高い。町内店舗からの依頼を受けて作成した。

県庁には山田夢空(ゆら)さん、印南蒼羽

(おおは)さん、鈴木莉子さん(いずれも三年)が訪れた。米袋を使ったレジ袋や新聞紙レジ袋を示し、活動の経緯を紹介した。八日から十日まで、只見町内で住民向けに新聞紙レジ袋の作り方を教える教室を開くという。

山田さんは「活動への思いを伝えられてうれしい」、印南さんは「自分たちの活動が広がって驚いている」、鈴木さんは「プラスチックごみの分別なども



只見中の生徒が米袋で作ったレジ袋

もっと学習したい」と話した。

内堀知事は「環境を考えている気持ちが真つすぐ伝わった。皆さんの取り組みを只見町から広く伝えてほしい」とエールを送った。横山泰久校長、目黒英樹教諭が一緒に訪れた。